

平成 27 年度 燕市・西蒲原郡算数部 活動報告

部長 坂井育男

1 研究主題

○基礎・基本を活かした活用の工夫～算数的活動を通して～

2 研究の概要

○会員の指導の向上に寄与する年 2 回の授業公開と講演会を開催する。

3 研究の実際

(1) 講演会 (講師：燕市教育委員会学校教育課 指導主事 佐藤 満 様)

◇期日：平成 27 年 6 月 3 日 (水) 会場：燕北小学校

◇講演会「基礎・基本を生かした活用の工夫」



①誤答傾向から学ぶこと

- ・ 「出てきた数値を使って感覚的に式を考えるから、間違えた」「問題をよく読まないから、間違えた」ということではなく、教師の指導がどうであったかをよく考えることが大切である。
- ・ 誤答を分析することで、子どもをつまずきの傾向が分かる。また、教師が教材を解釈する力が付く。誤答傾向を分析することは、どの子にも分かる授業を実現するために重要である。

②教科書の活用について

- ・ 教科書には数直線や表、グラフ、図など、答えを導くための見方や考え方が多数示されている。教科書を活用し、数学的な見方・考え方を身に付けさせていくことが大切である。
- ・ 各社の教科書を比較することで、数学的な見方・考え方を育む教科書の活用が実現できる。

③研究授業について

- ・ どの単元で、どの問題を選ぶか吟味することが大切である。各単元には、大きなギャップがあり、ここで、思考力・表現力を伸ばす問題解決学習を行っていく必要がある。

(2) 研究授業 (指導者：燕市教育委員会学校教育課 指導主事 佐藤 満 様)

◇期日：平成 27 年 12 月 2 日 (水) 会場：弥彦小学校

◇単元名：「三角形」(第 3 学年)

◇授業者：弥彦小学校 樺澤 崇 教諭 (MT), 若林 菜月 学習支援講師 (ST)

①研究授業の成果

- ・ 子どもにとって魅力のある課題 (ドット図の活用) が、意欲を向上させた。課題の提示の仕方にインパクトをもたせたり見通しをもたせたりすることで、集中して学習活動に取り組むことができた。
- ・ 子どもがかかわりながら学びを深める手立てが講じてあり、みんなが考え、協働的に学習を進めていた。
- ・ 構造的な板書が、子どもの理解を助けた。



②ご指導の概要

- ・ 子どもが個やグループでの課題解決に入るまでの時間を短くすることが大切である。そのために、教具を工夫するなどして、教師の言葉をなるべく減らしておく必要がある。
- ・ 普段から、子どもにきまりを見付けさせる授業をしていくことが大切である。
- ・ 授業で思考力・表現力をいかに高められるかが、算数教師の腕の見せ所である。

4 成果と課題

- 公開授業を通して、授業者が主題に迫るために様々な工夫をし、児童の主体性と引き出す提案のある授業実践が行われた。2 回にわたり、燕市教育委員会佐藤指導主事様から会員に示唆に富む的確なご指導をいただき、充実した研修会となった。来年度は新学習指導要領の告示が予定されている。一層、児童が目を輝かせて算数に取り組む姿を追求するために研究を深めたい。

